完成現場報告
ONE HOUSE
『ひとつの家』
1

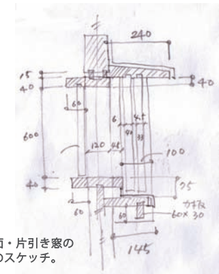
どこまでも自分好みの家

文／ココラボ　山崎健治
写真／ココラボ　古屋絵理

『ひとつの家』と名づけたこの家は、一枚の大きな屋根の中に平屋的な生活を主体として計画されました。大きなひとつの屋根の中で、家族がひとつに暮らす。そんな意味合いを『ひとつの家』の名前に込めています。

私の友人でもあり、建築の仕事に携わっている施主のS・Yさんとの共同作業で設計が進み、昨年の十一月に無事完成することが出来ました。

広葉樹の中でも比較的やわらかな「鬼胡桃（オニクルミ）を床材に使用した。
構造材などに使われている杉材とも調和し、上質な雰囲気を作っている。


裏室北面・片引き窓の詳細部のスケッチ。

『ひとつの家』は、1階の生活スペース21坪＋2階のロフトスペース12坪＋2台分の車庫7坪の、延べ40坪で構成されています。40坪と聞くとやや余裕のある大きさと思えますが、車庫やロフト部分を外すと、実際には21坪の1階だけが生活スペースと言うことになります。「生活スペースは小さくていいんです！たくさん部屋があっても使わないから、いつも使う部屋や場所を重視して考えていきたい」と、設計の初期段階からSさんご夫婦の考えは決まっていました。またSさんご夫婦は空間や素材に対する意識が高く、細部まで時間を掛けて図面や材料を吟味していきました。

Sさんのこだわりは各所に現れています。床材に使った鬼胡桃（オニクルミ）の床は、材木屋さんに丸太から買い付けをお願いし、半年以上前から準備を進めていきました。浴室においては洗い場と浴槽との高さを低くし、床に諏訪鉄平石を使うなど、独特の雰囲気を表現しています。そして中でもこだわったのが、家の『窓』の造りではないでしょうか。広間に設けた大きな引き込み窓や、キッチン前の台形のはめ込み窓、ロフトに上がる階段の上部には、空を横長に切り取った天窓などがあり、それらの全てが木製の枠で造られています。窓が住宅の中で果たす役割は非常に大きなものがあり、通風や採光と言った機能面はもちろんですが、窓からの景色や外とのつながりを楽しんだり、障子などの建具を組み合わせて暮らしに彩りを与えることも、窓の大切な要素と言えるでしょう。

今回の完成現場報告では、この家のこだわりの『窓』をご紹介しながら、各部屋の雰囲気をお伝えします。

南側から見た外観。夕景

日本の民家に見られる建具

湿気が多い日本では、古民家で見られるような開口部の大きな家が多く造られてきました。通風や採光を多く取り湿気を外に出すことで家を長持ちさせる工夫が、大きな窓を設ける目的としてあったように思います。また日本の民家には用途の異なる建具が用いられており、その開け閉めを組み合わせる事で季節や時間、天候や行事に合せた使い分けをしていました。ガラス戸や障子をはじめとして雨戸・簾戸・格子戸などがあり、全ての建具を開け放って庭との一体感を感じたり、日差しの強い季節には障子を閉めて光や温度の調節をすることが出来ます。これらを使い分けて家に機能を持たせ、生活のゆとりやちょっとした贅沢な時間を楽しんでいたのではないかと思います。

木製窓とアルミサッシ

少し前までは木製の建具が住宅に多く用いられてきましたが、現在新築されているほとんどの家では外部建具にアルミサッシを使うのが常識と言っても過言ではありません。以前の木製窓は隙間があり寒いとか、雨や紫外線による痛みが早い・現代では製作コストが高いなどと言った問題も多く、アルミサッシへの移行は当然といえば当然の流れだと思います。しかし気密性が良く熱伝導の高いアルミサッシは、室内に発生した水蒸気を外部に逃すことがなく、また外気の温度変化を顕著に室内に伝えるために、結露の問題になることも多くあります。複層ガラスに変えても窓枠で結露した、といった経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。とは言え、最近では防露サッシ（アルミサッシの枠の中に樹脂が挟まれている）や樹脂サッシ（外部がアルミで、内部が樹脂のハイブリッドサッシ）などの欠点を補う製品が沢山出ていますので、選択肢は広がっていると思います。

木製窓を製作する際の注意点

木製窓とアルミサッシ

性能やコストの面では決して優れているとは言えない木製窓ですが、私はお施主さんの希望さえ合えば積極的に提案しています。木製窓は開口部を自由に造る事ができ、また結露の心配も少なく、何と言っても木の家との相性は抜群です。細部まで考え設計していけば耐久性を持たせることができ、雨や風による心配も軽減することができます。また窓の納まりを工夫することで、コストを抑えた木製窓を造ることもできます。設計や製作に手間がかかるものの、何よりアルミサッシにはない温かな雰囲気を味わうことができることも、大きな魅力でしょう。

木製窓を製作する際の注意点

木製窓とアルミサッシ

木で建具を造るに当たっては、注意点が幾つかあります。建具の耐久性を上げる為に建物の庇を長くして雨をよける工夫や、雨・風の進入を防ぐために建具自体の納まりを工夫することも必要です。単に木で窓を造るというのではなく、木の種類をはじめ、使う金物に至るまで考えた作り方をしていかなければいけません。更には、気候や土地の条件、現代の暮らしに合う造り方も考えていくことが大切でしょう。

ここで、『ひとつの家』で造られた4種類の木製窓を例に取りながら、当社で行っている工夫を少しご紹介したいと思います。

この家の東面は道路に面しているため、障子を設けて目隠しにしている。
天井付近にあるハイサイド窓は、朝日を取り入れるために設けた。

キッチンの窓のうち、左下の一角が片引き窓になっている。

はめこみ窓＋隠し框の片引き窓

はめこみ窓の事をＦＩＸ（フィックス）窓と言います。『ひとつの家』のキッチンにある大きな窓を見ていただくと、一見全てがＦＩＸ窓に見えますが、実は左下の一角が片引き戸になり開閉します。これは、框の部分が鴨居や敷居・柱に隠れていて、室内からは見えない工夫がしてあります。「隠し框」と呼ばれる手法で、窓枠を見せず、窓を綺麗に見せたい時に使います。デザインを重視していますが、框部分が隠れるということは被さる部分が多くなることであり、雨や風の進入を防ぐ効果があります。雨戸があれば雨の心配も少なくなりますが、間取りやコストの関係上雨戸が付かないときは有効な手段です。『ひとつの家』の窓のほとんどがこの手法で造られており、雨戸分のコストを削減しています。

風がとっても
気持ちいい〜！

6尺引き込み窓

『ひとつの家』の南面室内から写した写真からもわかるように、大きなガラス戸を配置して、それらを戸袋の中に引き込む窓を提案しています。框（かまち）と呼ばれる窓枠は耐久性のあるヒバ材を使い、複層ガラスをはさみこんでいます。大きなガラスなので開けるのが大変なのでは？とよく聞かれますが、確かにガラスは非常に重い素材で、これだけの大きさで複層ガラスとなると総重量１００ｋｇ程になります。そこで使う戸車や敷居のレールの選択、下地にも配慮して設計しています。開けはじめは少し重量を感じるものの、少し動き出せばスムーズに開閉する事ができます。６尺（1.82m）と大きな窓なので、ガラスの制作範囲や現場での搬入方法も検討しておく必要があります。また網戸や雨戸も併用しており、雨戸は杉板やガルバリウム鋼板を貼ったりと様々ですが、雨の影響を受ける建具なので反りや狂いに気をつけています。

我が家にも大きな引き込み窓がありますが、大きな窓は閉めていても開放感を感じるため、庭の草花を楽しむ事が出来て気に入っています。

全ての建具を引き込むと、庭と室内が一体に感じられる。

6尺引き込み窓のレールには、真鍮で造られたノイズレスレールを使用。建具の滑りも良く、真鍮ならではの味わいも気に入っている。

ペンダント照明やソファ・チェアーなど、どれもＳさんが所有していたもの。木の家にピッタリですね。

天井を低く抑えて落ち着いた雰囲気の寝室にした。

玄関の式台には耳付きのウォールナット材を使用した。

S・Y氏のアイディアで、省スペースの中でも納まりよく手洗いと収納を造った。

ＳＣＡＮ社のＣ１-１GCBを設置した。背面と床には大谷石を使用。

天窓　Ⅳ

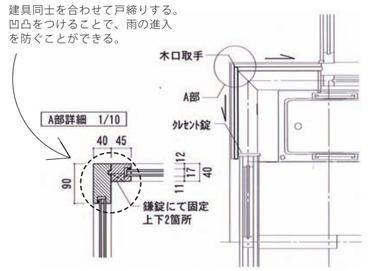
屋根からの採光は通常の窓に比べ、３倍の明るさがあると言われています。自宅に天窓を設けている方は、その明るさを実感されているでしょう。しかし屋根に窓を取り付けるという事で、当然雨漏りの危険性が大きくあります。サッシメーカーや建材メーカーから様々な天窓が出ていますが、通常の天窓は大きさに制限があり、またコストも高めです。開閉できる天窓もあり便利ですが、ＦＩＸの天窓であれば雨仕舞いに考慮して、板金とガラスを組み合わせて制作することが可能です。当社では主にベランダの上などの外部で使う事が多く、強化ガラスや合せガラスなどを使います。室内に設ける場合はそれらのガラスに加えて複層ガラスとし、断熱と結露も考慮する必要があります。天窓の注意点は雨だけではなく、夏の日射にも気をつけなくてはいけません。明るいからと南面の部屋上に大きく取ると、快適性を大きく損なう危険もあります。天窓の下に障子などを用いて日射を遮る工夫も有効ですが、なるべく日射を避けた配置や大きさとすることが大切だと思います。

開放感のあるコーナー窓からは、富士山が見える！

浴槽の設置高さを通常よりも低く抑えることで、浴室に広がりをもたせた。

洗面所と浴室の床材を同素材（諏訪鉄平石）にし、スッキリとした印象にした。

建具同士を合わせて戸締りする。凹凸をつけることで、雨の進入を防ぐことができる。



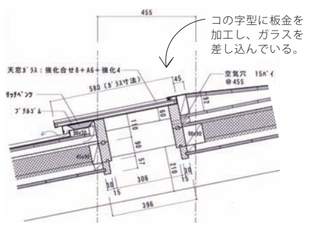
『ひとつの家』浴室　建具詳細図

Ⅲ　コーナー窓

『ひとつの家』の浴室にはコーナー窓を設けましたが、この窓ははじめての試みでした。コーナーに引き込む形状のため、当然アルミサッシでは製作が難しく、木製窓でも納まりを検討しました。通常使うクレセント錠に加えて、コーナーで建具同士が合わさる框部分にもカマ錠を取り付け、窓同士の密着度を上げています。あわせて、その框部分に凹凸を付け、雨と風の進入を防ぐ工夫をしました。網戸も設け、同じようにコーナーに引き込む形状にしています。コーナーに開放された窓は、通常の引き込み窓と比べて尚開放感がありますね！初めての納まりでしたが、出来上がりはなかなか良いのでは･･･と満足しています。

隠れ家的な空間になったロフトスペース。建物の幅いっぱいに切り取られた天窓が心地よい明るさをもたらしている。

『ひとつの家』天窓建具　断面詳細図



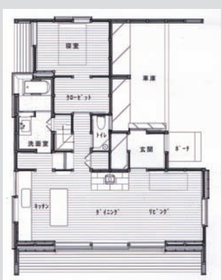
今回ご紹介した窓の他、『ひとつの家』の窓は全てが木で造られており、一つ一つの使い方や開き方を考えて、Ｓさんと共に設計して行きました。設計当初は所々アルミサッシの採用も考えていましたが、設計が進むにつれて、お互いに「意地」の様なものも感じていきました。最終的には奥さんの後押しが決め手となり、全ての窓を木製窓とし、大工や建具屋などの協力を得て造っていきました。

現代の多くの住宅建築では、アルミサッシを代表としてシステムキッチンやユニットバスなど、各建材メーカーで造られた既製品を多く使用しているように思います。それらの製品は、各メーカーの研究や努力により日々新しい工夫も多く見られますが、大量生産ゆえに住まい手がそれらの部材に合せて暮らしていくといった形にならざるを得ません。また使う側も仕組みや使い方を考えずに、コストやデザインで安易に選択している場合も多いように思います。そして特殊な仕組みや複雑な機能を持った製品は、メーカーの意図するように使われず、メンテナンスが行き届かないことも少なくないのではないのでしょうか。このような中、もう一度住宅に使われる製品の仕組みや使い方を考え、その造りを良く理解したうえで、耐久性や機能・デザインについても考えていくことが重要なのだと思います。それらの繰り返しの中で更に工夫が生まれ、より良い納まりが造りだされていくのでしょう。

今回の『ひとつの家』は、窓をはじめとして施主の希望から生まれた新しい提案があり、関わった皆で考えながら創意工夫を繰り返し完成しました。考えることや造ることの楽しさと共に、ものづくりの奥深さを感じた家造りでした。今回のような経験をさせていただけた、施主のＳさんご夫婦に感謝しています。ありがとう！　（文／ココラボ　山﨑健治）

仕様内容

家族構成	家族２人＋ONE
敷地面積	2227.08㎡
建築面積	113.02㎡
延べ床面積	133.31㎡　２階建て
構法	板倉構法
竣工	平成２０年１１月
外部仕上 屋根	ガルバリウム鋼板
外壁	ガルバリウム鋼板＋土佐漆喰塗
外部建具	木製建具、ナラ・ヒバ
ガラス	ペアーガラス
内部仕上 天井	杉本実板張り
壁	落とし込み板現し＋シラス塗
床板	＋大谷石張り　厚15㎜
内部建具	鬼胡桃本実加工　オリジナル
浴室・洗面所	ナラ・タモ　オリジナル
青森ヒバ板壁＋諏訪鉄平石張り	
設備 キッチン	オリジナル（タモ材）
浴室	浴槽（TOTO）
洗面所	洗面台（TOTO）
設計者	S・Y ＋ 山﨑健治



1Ｆ平面図

2Ｆ平面図